太平洋イカ類漁場調査

（抄　録）

黄金崎栄一・今村豊

１９９９年6月～１０月に西経１７５度以西の海域で、試験船開運丸（２０８トン）及び試験船東奥丸（１４０トン）でスルメイカ・アカイカの調査を行った。

スルメイカ

１９９９年の本県太平洋に来遊したスルメイカ漁は、6月１４日に白糠、7月３日に八戸で漁期が始まった。

太平洋の漁期入りはやや遅れ気味で、7月の前半までは９０年代では最低だった９８年を下回る漁獲であったが、7月中旬以降漁獲が好転し、漁期終了までの累積漁獲量（ウオダス漁海況速報）は白糠で９８８トン、八戸で3，０３７トン（前年白糠５０３トン、八戸1，９９８トン）の漁獲となり、前年を大きく上回ったが、９０年代の平均漁獲水準には達していなかった。

９０年代の太平洋に来遊するスルメイカの資源量は、中水準と見られていたが９８年には一転して低水準となったものと評価している。９９年の資源量の評価は、再び中水準となったものと評価しており、小型船の漁獲努力量も９８年の０．３１トン／日／隻から９９年０．５５トン／日／隻と高くなっている。９０年から９９年までの平均漁獲努力量は０．５９／日／隻であった。

アカイカ

１９９９年の八戸港におけるアカイカの水揚げ量は、１７，４４８トン余りで、９８年の４８，２５７トンを大幅に下回った。大畑港での水揚げはなかった。

八戸港での７・８月の（東経１７０度以東海域の漁獲物）水揚げは、９９年で8，０３８トン、９８年では１０，３００トンと対前年比では８０％と少ない落ち込みであったが、東経１６０度以西海域、特に１０月以降の道東・三陸沖に漁場が形成されなかったことが漁期全体の大きな漁獲減につながった。

漁場形成がなかった要因は資源量の低下ではなく、環境要因が大きいものと考えられ、９９年の三陸・道東沖の水温が近年にない高水温であったため、アカイカの分布が沖合（ソ連の領海）へ移行し、例年の回遊経路と違ったために漁獲できなかったものと推測される。

発表誌
平成１１年度いか釣漁場開発調査資料２５号
平成１１年度外洋性イカ（スルメイカ・アカイカ）に関する生物測定・標識放流・海洋観測結果基礎資料集　青森県水産試験場